

アコヤガイへい死対策に向けた飼育試験調査結果（R4）

（避難漁場実証試験〔稚貝〕）

（調査日：令和4年10月26日）

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

1 目的

- アコヤガイの大量へい死対策として漁業者が主体となって実施している、高水温期に母貝養殖の実態がない海域で稚貝を育成する試験における、リスク分散の有効性について検討する。

2 試験区の設定

- 避難試験漁場を宇和海北部漁場の西予市、宇和島市（北部）に設定し、比較漁場をそれぞれ同じ系統の日中交雑貝を垂下している宇和島市（南部）と愛南町に選定し、地点間、系統間で比較を行った。

3 調査結果の概要

- 調査した地点すべてで、異常死は見られていない。
- 北部海域で外套膜の萎縮が5%、北部・南部海域で貝殻内面の褐変が0-26%確認された。
- 海域を通じて貝殻内面の段が10-85%見られた。

海域	地区	系統	調査日	殻長(mm)	萎縮	褐変	段(内面)
北部(試)	西予市	日中交雑貝A	10月26日	36.6	5%	0%	30%
北部(試)	西予市	日中交雑貝B	10月26日	41.3	5%	0%	45%
北部(試)	宇和島市	日中交雑貝B	10月26日	39.1	5%	26%	68%
南部(比)	宇和島市	日中交雑貝B	10月26日	35.0	0%	0%	20%
南部(比)	宇和島市	日中交雑貝B	10月26日	30.8	0%	0%	85%
南部(比)	愛南町	日中交雑貝A	10月26日	33.8	0%	5%	50%
南部(比)	愛南町	日中交雑貝B	10月26日	31.2	0%	0%	10%

試:試験漁場 比:比較漁場

4 調査方法

- 水産研究センター職員が各漁場を回り、貝の状態、へい死率を確認するとともに、地点及び貝の系統毎に20個体を水産研究センターに持帰り、貝殻及び貝肉の状態を調査。